

市民の手でまちづくり

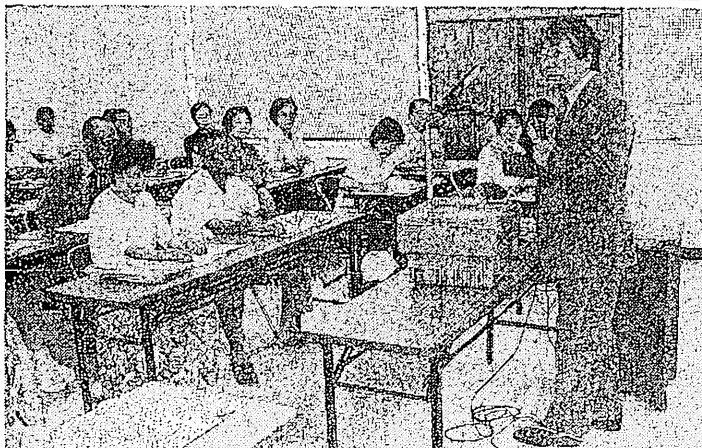
「名瀬なぜキョウ塾」が開講

具体的な計画の立案目指す

名瀬市が「生涯学習まちづくりモデル支援事業」で行う「名瀬市まちづくり創年大学」名瀬なぜキョウ塾」が二十五日開講し、名瀬市役所会議室で第一回目の講義が行われた。創年大学は地域活性化を図るリーダーの養成を目的としたもの。講義や街並み研究を通して地域の魅力を発見し、市民の手による特色あるまちづくりへ向けた具体的な計画立案を目指す。創年大学はNPO法人全国生涯学習まちづくり協会の認定講座として行われ、修生は、学習成果をまちづくりに生かす地域と共に活動するボランティア、「地域アンメーター」に認定される。講座初回のこの日は、同協会理事長で聖徳大学生涯学習研究所長の福留強教授と窪田能久教育長が講師を務め、講義とワークショップによる集中講義を実施。市役所や学校の職員、市民団体メンバーなど約五十人が参加した。

福留教授は全国のまちづくり事例を紹介し、「地域の活性化は市民一人ひとりの活性化、生涯学習による生きがいと生活の向上が基本」であることを説明した。

青森県名川町で農家の主婦たちが手作りの産地直売所を運営する事例では、「もつめるための学習が生きがいにつながっている」と指摘。また、「子ほめ条例」が施行されている大分県前津江村では、「大人が子どもを見過ごさない環境が、子どもの生きがいや地域への住民の関心を生



福留聖徳大教授が「住民が主役のまちづくり」を呼びかけた「名瀬市まちづくり創年大学」

んでいる」と説明した。そのうえで、「これからの事例は、役場頼りではなく住民が主役となって

街の新しい魅力を作り出したもの。子どもや高齢者も参画して多様な視点から街の良さを発見するところが、これからのまちづくりでは大切だ」と呼びかけた。

午後からのワークショップでは、事例から学んだまちづくりの発想法を受けて九つのグループごとにテーマを設定。次回八月の講座では、実際に街を歩き各テーマに沿って街の魅力を研究する。創年大学では今年十一

月に名瀬市で開催される大島地区生涯学習推進大会に参加するほか、全十二回の講座を通じて、まちづくりの事業報告書や自主的に実現できる業計画をまとめることになる。